

プリント加工の京美染色（京都市）は、捺染を手掛ける亀岡工場の敷地に縫製工場を新設した。最終製品を見る機会を作り、社員のモチベーション向上を狙う。

（榎田果歩）

24年1月に縫製工場を稼働しました。2階建ての工場で、1階には小型の裁断機を、2階にはミシンやアイロンなどを備えています。捺染工場の敷地内に縫製工場を作った狙いは、社員のモチベーションを高めるためです。

捺染工場ではインクジェットや手捺染を手掛けています。テキスタイルを作っています。



京美染色代表取締役 大塚直史氏

ると、どうしても最終製品を見る機会がなかなかありません。隣に縫製工場があると、自分たちが作ったテキスタイルを使った最終製品を見ることで、社員のやりがいになるはず。実際、社員同士の交流が生まれ、社内の空気も変わりつつあります。

もともと和装向けのテキスタイルの生産をしていたのですが、需要が減少しました。ただ、そのタイミニングで偶然、京都のテキスタイル・製品ブランドから受注が入るようになり、今では縫製工場で

社員のモチベーション向上狙う

も同社の製品を作っています。

今はOEM（相手先ブランドによる生産）をメインに考えていますが、ゆくゆくは自社のオリジナル製品の生産にも挑戦したい。外注生産の方が単価は抑えられますが、この工場だからこそ提供できる付加価値を見つけようまくいくはず。

京美染色では昔ながらの手作業による製造方法を守り続けています。人の手を加えて物作りをしている強みを生かしたいですね。

オリジナル製品への挑戦や物作りにとつて、人材は欠かせません。捺染工場は高齢化が進み、技術継承が課題となっています。京美染色の取り組みに興味があったり、テキスタイルや縫

製が好きだったり、原動力になるようなものを持っていると、意欲につながる働きがいのある仕事だと思います。

そのために、インスタグラムなどを通じ外部への発信に力を入れています。情報発信はイメージアップになるので、継続的に取り組みたいですね。インスタグラムを通じて、若い女性から捺染工場で働きたいと応募があったのですが、捺染台が高すぎるなどの課題がありました。古い工場で女性が働くことを想定していない設計になっているので、環境を整えることが必要です。

まだ立ち上がったばかりですが、これから本場のスタートです。染色から縫製まで一貫して手掛けている工場はあまりなく、かなり思い切った挑戦です。サプライチェーンの維持や技術継承のためにも力を入れていきます。

亀岡工場敷地に縫製工場新設